第４学年　外国語活動学習指導案

令和３年２月５日（金）　第６校時

第４学年　１組３５名

　　　　　　　２組３５名

　　　　　　　３組３６名

指導者　野村昌広

三田暢夫

須齋哉人

（１）単元名

「What do you want ?（ほしいものは、何かな？）」

（２）単元の目標

　○食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。

　　　○欲しいものなどを尋ねたり要求したりするとともに、会話の中で相手の質問に対して短い反応や繰り返し反応、短い感想などのリアクション表現を用いて応えている。

　○相手に配慮しながら、自分のオリジナルショップを紹介しようとしている。

評価規準

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
| ・英語で表現される果物・野菜の言い方や欲しいものを尋ねたり伝えたりする表現に慣れ親しんでいる。・果物・野菜の言い方や欲しいものを尋ねたり伝えたりする言い方について、日本語との音声の違いや表現の仕方の違いに気付いている。 | ・欲しいものやオリジナルショップについて外国語で聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。また外国語を用いて、自分で考えたオリジナルショップを紹介し合っている。 | ・進んで相手の欲しいものなどを尋ねたり要求したりする表現を用いて、主体的にコミュニケーションを図ろうとしている。・相手の質問に対して、短い反応や繰り返し反応、短い感想などのリアクション表現を用いて会話をしようとしている。 |

（３）本単元の学習と４年生の児童

本単元は、What do you want?/I want ～,please.の新出表現だけではなく、Do you like～?やDo you have（a）～?など、児童がこれまでに慣れ親しんだ語彙や表現を使って、児童同士で二往復以上のやり取りをする活動を設定している。何往復かのやり取りを経験し、言葉で通じ合うことの楽しさを十分に感じさせたい。二往復以上のやり取りを実現するために、題材は児童の興味・関心が高い食べ物やスポーツ等とした。さらに、児童を店の人とお客さん役に分け、絵カードを用いて売り買いさせる活動とした。相手に欲しいものを尋ねたり自分の欲しいものを伝えたりすることで無理なくやり取りできると考えた。また、各自でオリジナルショップを考えたり紹介し合ったりすることで、仲間の様々な考えやその良さに気付くことができる教材となっている。「Here you are.」や「Thank you.」等の表現も取り入れ、相手の問いかけに声を出して反応することで、コミュニケーションが円滑に進むことを体感させていく。英語で会話をする面白さや人と関わる楽しさに気付かせるとともに、友だちの良さや新たな一面を見付けることができるよう場面設定を工夫して、コミュニケーションの楽しさを実感できるようにしたい。

今年度の４年生は、昨年度英語主任の授業を受けており、これまでも外国語での活動に慣れ親しんできた。６月に行った意識調査では、「外国語の学習は好きですか」「友だちや先生（ALT）などとあいさつしたり会話したりするのは楽しいですか」という質問に対して、肯定的な評価が７０％を超えていた。その一方で、「英語を使ってみんなの前で発表するのは得意ですか」の質問に対しては、７０％以上の児童が苦手意識をもっていることが分かった。「外国語活動は好き」、「友だちと会話をすることは楽しい」と感じている児童が多い。その反面、みんなの前で発表するとなると、「見られると緊張する」「恥ずかしい」と感じ、苦手意識をもっている児童も多い。

この問題を解決するために、３つのことに取り組んだ。①アクティビティの前にデモンストレーションを行ったり、ペアで練習をしたりするなどスモールステップで活動を進め、どの児童もスムーズに取り組めるようにする。②発表で使う英単語やセンテンスを何度も練習したりゲームの中で活用させたりしながら、外国語に親しめるようにした。③毎時間いろいろな友だちとスモールトークを行い、たくさん会話をすることで自分のことを伝えたり発表したりする機会を増やした。

以上のような取組を基に様々な活動を行い、１１月に上記アンケートを再び行った。

「英語を使ってみんなの前で発表するのは得意ですか。」という質問に対して肯定的な回答をした児童は３割と変わらなかった。取り組み始めるのが遅れてしまったため成果をあげることはできていないが、現状から減らなかったのは自信を失うことなく活動することができているとも考えられる。

児童は昨年度より年間を通した外国語活動を始め、今年度も担任とＡＬＴで３５時間の外国語活動を行っている。初めは恥ずかしさからみんなの前で発表することに抵抗感をもったり、難しさから外国語に苦手意識を感じたりする児童もいたが、学習を重ねながら友だちやＡＬＴとコミュニケーションを取る楽しさを感じられるようになり、楽しみながら外国語活動に取り組んでいる。また使えるようになった単語やセンテンスも増え、友だちとのやりとりでは、「Oh.」「I see.」「Me too.」などのリアクションを取りながら会話を楽しむ活動に取り組んできた。本単元は、友だちとのやり取りの中で自分の考えを発表する活動となっているため、「やってみたい」「できそう」「できる」という思いをもって臨む姿が期待できる。「外国語は楽しい」「友だちとの会話は楽しい」という気持ちをもつとともに、「自分のことを発表できると嬉しい」という自信を少しでもつけて、高学年での外国語が始められることをめざしたい。

（４）本単元における研究主題に迫る手だて

①積極的にコミュニケーションをするための手だて

a.コミュニケーションの基礎を作るためのリアクションをする取組

コミュニケーションの基本は、「自分から発信すること」だけではなく、「発信された　内容を受け止め、返すこと」であると考える。特に外国語という普段使用していない言語において、文章を使って返事をすることには、言語知識や文法理解など一定の壁が存在する。そこで４年生では、３年生の学習に続き、相手の会話に対してリアクションをすることができるように、リアクションシートを作成し、それを基にしながら多様なリアクションを取る取組を行っている。リアクションの種類を知ることで、自分の気持ちを表現しながら相手の気持ちを受け止め、会話につなげていくスモールステップとしていきたいと考える。

b.活動内容や学習形態の工夫

短い時間で行える小ユニットを組み合わせることで、多様な活動内容を展開できる工夫を行う。児童の関心の高い英語の歌を歌うことから始まり、ゲームやインタビューなどを行うとともに、新規センテンスやワードの練習もテンポよく、短い時間で行うようにする。また、練習回数を常に同じようにしていくことで、児童が活動の見通しを立てやすい工夫も行う。本単元では、「お店屋さんごっこ」を通してペア活動やグループでの活動、クラス全体でのカフェテリア形式での活動を行うことで多くのコミュニケーションが図れる活動を設定するとともに、特に本時では学年全体での活動とすることで、より多くのコミュニケーションの機会を設定する活動とした。

②外国語に慣れ親しむための手だて

a.お店屋さんごっこの活用

「お店屋さんごっこ」を通して、本単元で扱う基本的な表現や語彙を楽しみながら繰り返し扱い、慣れ親しませる。できるだけ日常的かつ親しみ深い「お店屋さんごっこ」を活動とすることで、意欲的に取り組める状況をつくる。スモールステップとして最初に決められたお店の紹介をクラスの中で行うことで、活動を把握し、見通しをもたせた上で自分のオリジナルの店を学年の友だちに紹介し合う活動につなげる。より多くのやりとりを行うことで児童の意欲を喚起していく。

b.歌の活用

年間を通して外国語活動の授業の冒頭で歌唱する曲を、児童と話し合いながら決めてきた。児童が「歌いたい」と思う曲を導入で歌うことで、授業が活気づき、その後の　活動にも意欲的に取り組むようになっている。選曲の際には、児童にとって歌いやすいテンポかどうか、既習のワードやセンテンスがあるかどうかなども加味しながら選ぶようにした。

③　評価の工夫

a.行動観察

意欲的に英語を使おうとする態度や姿勢、ジェスチャーや表情、リアクションなどを使い、自分の気持ちを進んで伝えようとしている点、相手の話を受け止めている点を評価する。また、各単元の中で、児童が一人一人表現し、発表するための機会を設定し学習の内容が定着しているかどうかを適切に評価できるようにする。

b.リフレクションシートの活用

各単元で使用しているワークシートや、毎時間行っている児童が活動における自分の状況を振り返るためのリフレクションシート、歌ってきた歌の歌詞などを一つのファイルにまとめることでポートフォリオを作成させている。それにより児童がこれまでの活動を振り返るための手がかりとするとともに、評価の一助としても活用することで、児童が主体的に学習に取り組んでいるかを把握する。

（５）学習計画と評価計画［全５時間扱い／本時は５時間目］

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時 | 学習活動《新出の表現》 | 評価規準【評価方法】 |
| １ | ・果物や野菜の英語での表現方法を知る。・欲しいものを尋ねたり、伝えたりする表現を知る。《What do you want ? / I want ～,please.》 | * 果物や野菜、欲しいものを尋ねたり、伝えたりする表現方法を知り、英語で表現しようとしている。【観察・振り返りカード】
 |
| ２ | ・オリジナルパフェを作る活動を通して、前時に学習した表現方法を使い、相手の欲しいものを尋ねたり、自分の欲しいものを伝えたりする。・自分のものを渡したり、相手からもらったりするときの表現方法を復習する。 | * 既習の表現方法を使って、相手の欲しいものを尋ねたり、自分の欲しいものを伝えたりしている。【観察・振り返りカード】
 |
| ３ | ・相手の欲しいものを尋ねたり、自分の欲しいものを伝えたりする表現方法を復習する。・次時の活動（秋葉台マーケット）に向けて、各自準備（カードの作成）をする。 | * 相手の欲しいものを尋ねたり、自分の欲しいものを伝えたりする表現方法を思い出しながら会話をしている。【観察・振り返りカード】
* 次時の準備に意欲的に取り組んでいる。【観察・振り返りカード】
 |
| ４ | ・オリジナルショップの活動を通して、相手の欲しいものを尋ねたり、自分の欲しいものを伝えたりする。・会話の中で、相手の質問に対して短い反応や繰り返し反応、短い感想などのリアクション表現を用いて応える。・次時の活動（オリジナルショップの紹介）に向けて、各自で練習したりグループで見合ったりする。 | * オリジナルショップの活動を通して、相手の欲しいものを尋ねたり、自分の欲しいものを伝えたりしている。【観察・振り返りカード】
* 会話の中で、相手の質問に対して短い反応や繰り返し反応、短い感想などのリアクション表現を用いて応えようとしている。【観察・振り返りカード】
* 次時の準備に意欲的に取り組んでいる。【観察・振り返りカード】
 |
| ５（本時） | ・既習の表現方法を使って、友だちとオリジナルショップを紹介し合う。・紹介し合うなかで、相手の発表に対して短い反応や繰り返し反応、短い感想、などのリアクション表現を用いて応える。 | * 既習の表現方法を使って、オリジナルショップを紹介しようとしている。【観察・振り返りカード】
* 紹介し合うなかで、相手の発表に対して短い反応や繰り返し反応、短い感想などのリアクション表現を用いて応えようとしている。【観察・振り返りカード】
 |

（６）本時の展開（５／５時）

①本時の目標

　・自分のオリジナルショップを友だちに紹介することができる。

　　・会話の中で、相手の質問に対して短い反応や繰り返し反応、短い感想などのリアクション表現を用いて応えることができる。

　②本時にめざす児童の姿とそのための具体的な手だて

・Small talkで、talkシートを活用したり、必然性のある状況を設定したりすることで、「楽しく」「意欲的」に活動することができるようにした。

③本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 過程 | ○学習活動 | ・指導上の留意点☆評価【】評価方法●手だて |
| Greeting（３分） | ○簡単なあいさつをし、調子を伝え合う。○今日の天気や日時、現在の時間を確認する。○外国語の学習で大切なことを確認する。（teacher⇒全体へ）T: Hello. C: Hello. T: How are you? C: I’m ○○.T: How is the weather?C: It’s　○○.T: What day is it today?C: It’s ○○.T: What’s the date today?C: It’s ○○.T: What time is it now?C: It’s ○○.T: What’s important to study English?C: listen/speak/guess/gesture/reaction | ・本時を楽しく活動できるよう「明るく」「笑顔」で問いかけるようにする。・短い反応の定着と自然なリアクションを促すために、今までに学習したことを授業の初めに確認する。 |
| Singing（３分） | ○英語の歌を歌う。１組「Racing into the Night」２組「We will rock you」３組「ultra soul/Roki」 | ●手だて②b・自由な雰囲気で楽しむが、既習事項や知っている英単語は、積極的に発語するよう助言する。 |
| Review（３分） | ○単語カードを使い、既習の英単語やセンテンスの確認をする。（全体→クラス半分→列→ボランティアなど）Do you like ～? /What’s this color?What’s this letter? /Do you have（a）～?/How many～?/What ～ do you like?/I like～./What do you want?/I want ～. | ・数枚の単語カードで複数の既習事項を全体に復唱させる。・「What ○○ do you like?」と「What do you want?」は、教師が質問、児童が答えるという形の練習も行い、次のSmall talkやActivityに繋げられるようにする。・I like やI wantの後に続く言葉は、日本語でも良いこととする。（例：I like おまんじゅう/I want 自転車など） |
| Small talk（５分） | ○既習事項を使い、友だちと会話を行う。（ペア→フリー）例A:Hello. 　　　　　　　　B:Hello.A:What○○do you like?　 B:I like○○.A:Oh! Nice! Change×２A:Thank you. B:Thank you.Bye. Bye. | ●手だて①a③a・Small talk sheetを用いて、既習事項を使って会話を楽しむことができるようにする。・デモンストレーションを行い、どの児童も安心して会話ができるようにする。☆会話の中で、相手の質問に対して短い反応や繰り返し反応、短い感想などのリアクション表現を用いて応えようとしている。【観察・振り返りカード】 |
| key sentence（５分） | ○今日のめあてを確認する。Today’s goal: 友だちとオリジナルショップを紹介し合おう！○This is my ○○ shop./This is○○. /I like ○○. /I have ○○./Any question?など、本時で使うセンテンスの確認と練習をする。（全体→教師と児童→男女→ボランティア→ペア） | ・単語カードは、分かりやすいものを使い、段階的に難しいものを扱うようにする。・すべてのセンテンスを全体で練習した後、ペアで初めから最後までの流れを練習させる。 |
| Activity（２０分） | ○自分で考えたオリジナルショップを学年の友だちに紹介する。例A:Hello. This is my ○○ shop.話し手は、この３種類のセンテンスから３文を選び、組み合わせて発表する。 I like ○○. This is ○○. I have ○○. Any question?B:Good!聞き手は、発表を聞いた後、リアクションをとったり質問をしたりする。C:Do you like ○○? D:Do you have ○○?E:Nice!F:Me too! G:I want to ○○.A:Thank you./Oh!/話し手は、リアクションや質問に答える。I see./Really? /Yes,I do./No,I don’t. A:Ok.Thank you! B～G:Thank you!Bye. Bye.○各グループの発表終了時、各クラスにいる児童の中で代表者を指名し、全体の前でオリジナルショップを発表する。 | ●手だて①b②a③a・デモンストレーションを行い、流れとやり方を確認させる。・発表のルールは、できる限り英語でジェスチャーを交えながら説明し、黒板に掲示する。また、必要に応じて日本語も加えながら理解を促すようにする。［Today’sルール］①学年全体で行う。各クラスを３グループ（ABC）に分け、５分ずつ発表を行う。②お店屋さんは、A→B→Cの順で行う。③話し手は、選んだアイテムを見せながら紹介をする。④発表終了後、聞き手はリアクションをとるか簡単な質問をする。話し手はそれに答える。⑤話し手の話が全て終わったら、気持ちを込めて拍手をする。⑥質問の内容のみ、日本語でも良い。（例：Do you like おまんじゅう?／Do you like 空手？など）⑦どの店から回っても良いが、1つのお店に１度しか聞きに行くことはできない。⑧他のクラスの友だちのお店にも必ず行くこと。☆「楽しく」「意欲的」に取り組んでいる。【観察・振り返りカード】☆紹介し合うなかで、相手の質問に対して短い反応や繰り返し反応、短い感想などのリアクション表現を用いて応えようとしている。【観察・振り返りカード】 |
| Reflection（３分） | ○振り返りカードを使って、今日の学習の振り返りを行う。 | ●手だて③b・日本語で指導を行う。・リアクションの回数や本時の感想などを記入させる。 |

（７）その他

　①資料

リフレクションシート



②Small talkシート

